性的動画・雑誌接触が青少年の性意識・行動に及ぼす影響 (1)

—性行動への影響—

○榎淵めぐみ (筑波大学)・安藤玲子 (金城学院大学)・鈴木佳苗 (筑波大学)
熊崎あゆち・桂瑠以・坂元章 (お茶の水女子大学)

キーワード：メディア利用, 性的コンテンツ, パネル調査, Web 調査, 因果関係

目的

青少年の性の問題について、しばしばメディアの悪影響論が展開されているが、青少年を対象とした研究は少ない。本一連研究では、テレビや映画等の「動画メディア」とマンガや小説等の「雑誌メディア」に着目し、これらのメディアを介した性的コンテンツへの接触が青少年の性意識・行動に及ぼす影響について検討した。本稿(一連研究の(1))では、性行動への影響について報告する。¹

方法

調査時期 1回目調査 (T1) は2011年10~11月、2回目調査 (T2) は2012年2月であった。

調査対象者 2回の調査に回答した15~19歳の青少年715名 (男子332名・女子383名) を分析対象とした。T1での平均年齢は16.99歳であった。

質問項目 **性的動画接触** 恋愛やセックスを含む①テレビドラマ②映画③アニメ、④アダルトビデオ (DVD) について、この1ヶ月間の平均利用頻度について、全くしない (0)、4週間に1日 (1)、3週間に1日 (2)、2週間に1日 (3)、週に1日 (4)、週に2~3日 (5)、週に4~5日 (6)、週に6~7日 (7) の8件法で尋ね、4項目の合計接触量を求めた。**性的雑誌接触** セックス描写を含む①マンガ②雑誌③小説、④アダルトグラビア誌について、性的動画接触と同様に平均利用頻度を尋ね、4項目の合計接触量を求めた。**性経験** 榎淵他 (2012) と同様に、二人きりのデート、キス、ペッティング、コンドームを使ったセックス、コンドームを使わないセックス、について、経験の有無を尋ねた。コンドーム使用と不使用のセックス経験の和集合を求め、「セックス経験」全体の指標を合成した。**デモグラフィック変数** 年齢、性別を尋ねた。

手続き 調査は株式会社ネットマイルに委託した。

結果

基礎統計量 性的動画・雑誌接触の平均値を男女別に求めた結果を表1に示す。男子の性的動画接触量が女子に比べ若干多いものの、動画と雑誌とも総じて男女の接触量は同程度であった。

性的動画・雑誌接触が性行動に及ぼす影響 性的動画・雑誌接触が性経験に及ぼす影響を検討するために、T2の性経験の有無(0/1)を従属変数、T1の性的動画・雑誌接触を独立変数とするロジスティック回帰分析を男女別に行った。本分析では、オッズ比 (OR) が1より大きければ正の効果、1より小さければ負の効果があることを意味する。なお、従属変数となる性経験の各々について、T1の性経験が「あり」であった者が、T2で経験「なし」となることは論理的に起こり得ないため、各分析の対象者は、T1の当該性経験が「なし」の者のみを抽出した。

分析の結果、女子では有意な効果は検出されなかった。男子の結果では、性的動画接触が、セックス全体 (OR=1.21, $p<.01$)、コンドームあり (OR=1.22, $p<.001$) およびコンドームなし (OR=1.15, $p<.05$) のセックスに対する効果が有意であった。加えて男子では、性的雑誌接触が、セックス全体 (OR=1.14, $p<.01$)、コンドームあり (OR=1.16, $p<.001$) およびコンドームなし (OR=1.15, $p<.01$) のセックスに対する効果も有意であった。

考察

本研究では、男子において、性的動画および雑誌をよく利用するほどセックス経験をもつようになることが示唆された。特に、コンドームなしのセックス経験への影響については、性感染症や望まない妊娠の予防の観点からみて、対策が必要と言えるだろう。

表1 性的動画・雑誌接触量の男女別平均値

	男子		女子	
	T1	T2	T1	T2
性的動画接触	2.05	1.67	1.67	1.58
性的雑誌接触	1.69	1.51	1.62	1.57

引用文献

- 1) 榎淵めぐみ他 (2012) 青少年のネットにおける性的コンテンツ接触が性経験に及ぼす影響 日本心理学会第76回大会 (発表予定) .

¹本研究は、三菱総合研究所、安心ネットづくり促進協議会と連携して行われた。